

一般社団法人 都城青年会議所  
2023 年度 理事長所信  
スローガン

# 「ともに心躍る未来へ」

～笑顔溢れる都城<sup>ま</sup><sub>ち</sub>のために～

第 60 代理事長  
東迫 紀憲

## 【はじめに】

2023 年現在はニューノーマルな時代を迎え、世界的に常識が大きく変わってきました。日本においても新型コロナウイルスの未曾有の脅威により緊急事態宣言が発令されるなど、我々の日常を非日常に変え社会の様相は一変してしまいました。

青年会議所運動も例外ではなく、今までは当たり前のように行っていた対面での活動や、多くの市民を巻き込んだ事業も自粛を迫られてきました。それに伴い、急速にオンライン化が進み委員会や例会、各種大会への参加が WEB でもできることが当たり前になってきています。WEB での開催は簡単に人と繋がれるようになり、参加が叶わなかったメンバーに対して機会を提供することのできる素晴らしい取り組みである一方、対面で開催できない弊害としてコミュニケーション不足により実際に集まって会議をすることで得ていた、人と人が触れ合うからこそ生まれる新しいアイデアや、何気なく話していたことから生まれる気づきというものが無くなるなど人間関係の希薄化が如実に現れていると感じております。真の人間関係の構築は、オンラインでは難しいということを知りました。現地で行う事の価値を改めて考え、コロナ禍においてこれまで培ってきた新様式での委員会や例会を開催していく事が都城青年会議所をさらに飛躍させるものと確信しています。

歴史を振り返ると日本は、いくつもの国難を乗り越え、その度に更なる進化を遂げてきました。荒廃した戦後社会の中「新日本の再建は私たち青年の仕事である」として立ちあがった青年たちにより日本の青年会議所運動は始まりました。その志が全国に波及して 1964 年に全国で 265 番目に都城青年会議所が設立されました。この頃と今は同じではないでしょうか。

この状況下において、我々に必要なのは、何かが起こってから対処するのではなく、今後起こりうる問題を予測し、先人たちの想いを受け継ぎ、自らの手でより良い未来を創造していく事が大切です。新しい時代に対して我々が考えるわくわくできる新しい価値観を提供することによって、これからも地域のことを思い、ひとと繋がり、対話し、地域から必要とされる団体を目指していきましょう。

## 【心躍る創立 60 周年 ～わくわくと感謝の継承～】

1964 年 2 月 26 日、初代理事長 宮永家昌先輩をはじめとする志高き 40 名の青年が集い、このまちをより良いまちにしていくという決意を胸に、全国で 265 番目に都城青年会議所が誕生しました。今日まで先輩諸兄の愛するこのまちをより良くしていく、その想いが途絶えることなく脈々と受け継がれ本年創立 60 周年を迎えます。また、この半世紀以上にも渡る先輩諸兄の揺るぎない信念と弛まない努力によって創られた歴史と伝統の礎を我々自身が心に刻み、次代へ繋いでいく為に地域に改めて発信していく必要があります。

60 周年という節目に改めて確認しなければならないことは、これまでの歴史のお陰でこの尊い青年会議所運動を我々現役メンバーが今も続けられるということです。永続的にこの運動ができたのは、行政や企業、各諸団体、そして何より、市民の皆様の御理解と御協力をいただきながら、様々な方との関わりを持たせていただくことができたからです。そしてこの運動を牽引してきたのは、その時代に即した組織づくりを行いながら地域に多大な影響を与え続け、都城青年会議所を地域から必要とされる団体として伝統を築き、守り続けてくれた先輩諸兄です。これまでの歴史を築き上げていただいた先輩諸兄に敬意を表すと共に、都城青年会議所に関わっていただいた全ての皆様に対し、我々現役メンバーは 60 周年事業を通じ、感謝の気持ちを大切にしながらこれからも運動を行っていきます。

これまでの都城青年会議所の全ての運動の原点にあるものは、まちを愛する強い想いです。我々がこれからも大切にしていかななくてはならないこの想いこそが、持続可能なまちづくりの原動力となり、その強さがまちづくりの根幹を支えます。このまちの環境を最大限に活かし、同じ志を持つ仲間と共に、脈々と受け継がれてきたまちを愛する想いを我々が架け橋となり次世代に繋ぎます。

そのために我々が、常識に捉われない個性豊かで魅力あふれる組織として、新たな視点から次世代の子ども達に、このまちが好きでこのまちに残りたい、将来また戻ってきたい、と思える心が育まれる事業を青少年に向けて行い、親から子へ、子から孫へと世代を超えてその想いが、家族とまちを結ぶ架け橋となる運動を行います。

さらに、一人ひとりが世代を超えた絆を強く心に刻み、誰もがこのまちを愛し、住み続けたいと思えるまちを目指し、未来に向け 60 周年を機に都城青年会議所の運動の中長期ビジョンを掲げます。これまでの歴史に感謝の気持ちを忘れず、未来永劫持続可能なまちとなるために、今後の都城青年会議所の更なる発展に向け、メンバー一丸となって、わくわくするような大きな一歩を踏み出せるよう邁進します。

## 【会員拡大とアカデミー】

青年会議所の運動は会員なくしてあり得ません。青年会議所は在籍 40 歳までという規則がある以上、会員の新陳代謝を繰り返すことが必然であり、会員拡大が常に求められています。青年会議所には、地域の青年に発展と成長の機会を提供するプラットフォームとしての役割があり、新たな同志を迎え入れていくにあたり、青年会議所の魅力と私たち自身の魅力を伝える必要があります。膝を突き合わせて、目を見て思いを伝えるという機会が減る現状の中、我々が何を目的とするのか、どのような人財を育む時間なのかを理解することが必要であり、的確に魅力を伝えられる人財を創出する会員研修が必要であるといえます。メンバーが、都城青年会議所の歴史から様々なことを学び、組織の強みを深く理解し、それを自身の魅力に変えて的確な発信ができるようになることで、より恒久的な会員拡大が実現されます。

地域の発展には、より多くの若者に青年会議所を通じて地域をリードできる人財へと生まれ変わる機会を今後も提供し続けなければなりません。なぜならそれが私たちの使命だからです。そのためには私たちの理念に共感する人財を多く募る必要があります。メンバー数を純増させ組織力を高めることで、地域をリードする若き人財を増やし、青年会議所運動を最大化していきましょう。

## 【組織力を強化し都城青年会議所をブランディングする】

近年、組織風土を醸成するという機運が高まり、会員が声を上げ組織改革を行ってきました。会員数が減少傾向にある中、退会者を出さない組織体制を作ることも、法人格を有する団体にとって必要不可欠なことだと考えます。一昨年より、青年会議所と仕事、家庭を並立しながらも活躍しやすい環境にするというキーワードが起点となり、職場や家族に理解され会員が参加しやすい組織となるべく議論を重ねて参りました。このような取り組みを行う背景には、多様化する働き方や生き方が関係していると考えます。現代社会は、土日祝日、昼夜問わず働くことがステータスという時代ではなく、働きやすさ、活動しやすさ、仕事と家庭、青年会議所活動をそれぞれ並立できるかが重要であり、在籍する会員が求める水準も以前と比べ高くなってきています。

しかし我々は、定款や規定の上で組織を学んでいるのも事実です。現在、在籍年数の浅い会員が増えている中、所属する組織のことについて学ぶ機会が減り、その状態のまま活動や運動を行っているのが現状です LOM 内で研修できる場を整え、あらためて、会員一人ひとりが組織について理解を深め、ルールを遵守しましょう。その上で、変化が必要であれば議論し魅力ある組織になるよう改革していきましょう。

世代を超えて我々の想いを広く伝播していくためにも、計画的な広報戦略を立て、時代に合った媒体を有効に活用した広報活動を行って参ります。都城青年会議所と地域の架け橋となる広報活動を実施し、都城青年会議所の価値がより高まるブランディングをおこないます。

## 【多様性を取り入れたビジョナリーシティの実現】

これからの青年会議所運動の考え方の一つとして、青年会議所単体での事業構築から、これまでよりも、もっと地域の方々の声を反映させた事業展開を行っていく事も大切だと考えます。地域課題に対して主観的、客観的、俯瞰的に見る力を養い、地域の課題と一緒に解決していく共感者の方々と共に問題解決に向けて協議し、その上で私たちに出来る事は何かを導き出していくことが重要になってきます。これからの地域課題は何かをしっかりと捉え、課題解決に向けて何をすべきであるかということ、我々現役メンバーで考え、運動を起こし、社会課題解決の仕組みをつくり、持続可能な地域づくりに貢献していかなければなりません。

また、私たちの運動は常にビジョンをもとにして作られています。ビジョンは、メンバーに運動に対する指標をもたらし、刻々と変化する時代を見据え、その先の未来を想像できるものでなければなりません。世界的感染拡大は、予想を超えて、私たちに長期的な影響を与え、社会、生活に大きな変化をもたらしました。だからこそ、急速に変わる時代に応じて、このまちの目指す未来を明確化し、組織の結束力を高め、地域に広く深いインパクトを与える、より具体的なビジョンを示すことが必要です。青年会議所運動の本質は何のために行うのか。自分よがりの運動になってはなりません。今こそ、これまでも推進してきた SDGs(持続可能な開発目標)を道標とすべきであると考えます。都城青年会議所のビジョンと運動に SDGs を結びつけ強く推進していくことで、これまで以上に地域との調和をもたらし、持続可能で明るい豊かな社会の実現へと近づきます。

## 【結びに】

都城には夢と希望、そして心のつながりがこれまで以上に必要です。そのために私たちが心躍る未来を描きながら団結し、市民の心を動かし、より良いまちへ変えていきます。

そのために必要なこと、それは皆で「わくわく」することです。仲間は多い方が「わくわく」します。皆の心をつなげ「わくわく」する都城の価値を創りましょう。

私たちが「わくわく」することが出来れば、自然と仲間が増えていき、まち全体に「わくわく」が広がったとき、必ず都城はより良いまちに変わります。

都城を「わくわく」させるのは私たちです。

「わくわく」を伝播させ、「ともに心躍らせ 笑顔溢れる都城<sup>まち</sup>」を創造していきましょう！